

Co-Creation

with the community
2021

vol.06

CONTENTS

P1 学長メッセージ / Co-Creation第6号発行にあたって

【地域連携 古賀市】

P2 高齢者へメッセージカード / スイートコーン実証実験

P3 プログラミング授業 / PBL古賀市プロジェクト

【地域連携 新宮町】

P4 新宮海岸清掃 / サマーキャンプ

【地域連携 篠栗町】

P5 社会環境PBL篠栗町 鳴淵ダム / 地域創生入門

【地域連携 島原市・福岡市】

P6 島原市の防災訓練 / 博多湾NEXT会議

【地域連携 福岡市・福岡県警察】

P7 東区芸術文化祭 / 県警特別講義 / 県警とのPBL

【大学連携 福岡未来創造プラットフォーム・東部地域連携】

P8 学生交流プロジェクト / 福岡学

P9 エンジニア基礎講座 / SDGsを学ぶ / 性犯罪防止キャンペーン

P10 認知症に関する講座 / 認知症声掛け訓練

学生が高齢者に 心を込めたメッセージカードを作成



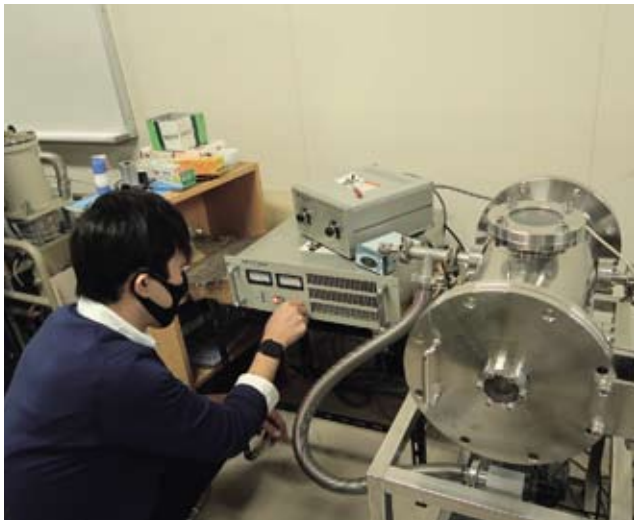
新型コロナウイルス感染症対策として、様々な活動が制限される中、高齢者の気力や体力の低下が心配されています。連携協定を結んでいる古賀市と本学は協力して介護予防につながる情報を高齢者にお届けし、長く元気な日常生活を送ってもらうことを目的に、メッセージカードを作成しました。

2021年6月末から9月初旬にかけて、参加した本学の学生60名が高齢者の元気の出る心のもったメッセージやイラストを1枚1枚手書きし、1200枚以上のメッセージカードを作成。9月24日、完成した約1200枚のメッセージカードを学生から古賀市健康介護課へ贈呈しました。贈呈したメッセージカードは、11月11日の介

護の日や高齢者対象のイベント時に参加した古賀市住民へ配布され、好評でした。この取り組みについては、9月20日付西日本新聞の社説に取り上げられる等、学内外の注目を集めました。

作成した学生たちは「心を込めて頑張って描いたイラストやメッセージで元気に長生きしてほしい」と話していました。

プラズマ照射でスイートコーンの 成長・品質向上・実証実験



福岡工業大学 工学部 電気工学科 北崎研究室ではエネルギーの高い状態であるプラズマを利用して、植物種子の成長促進・品質向上に関する研究や収穫後の作物にプラズマ処理を行って腐敗の防止や品質の向上をめざす研究を行っています。

その一環として今年度も古賀市と古賀市農家(有)安武園芸様ご協力の下、スイートコーンの成長促進・品質向上を目指して実証実験を実施しました。同市の特産品でもあるスイートコーンの種子に複数の条件で酸素ガスをプラズマ化して照射し、生育後品質が通常よりも向上しているかを検証しました。

4年目となる2021年度は、4月6日にスイートコーンの種子へプラズマを照射し、種まきを実施。順調に発芽し、4月29日に苗を畑に定植しました。しかし、定植時期に多く雨が降った影響で成長が悪く、急遽2回目の追加実験を行うこととなりました。

2回目の実験は天候にも恵まれ、発芽から8月の収穫まで順調に育成することができ、1回目と2回目の実験で合わせて359個のトウモロコシを収穫することが出来ました。

収穫したトウモロコシを分析した結果、プラズマを特定条件下で照射したコーンは未照射のものに比べて平均重量、平均糖度の上昇が見られ

ました。

本実験に取り組んだ学生は、「雨や台風の影響でうまく育たない事を体験し、農家さんがいかに大変かわかった。今後も研究室、後輩が研究を続けて農家の皆さんの負担を軽減したり、発展したりするなど良い結果を提供できたら嬉しい。」と話していました。

今後、さらに実験・検証を進め、より付加価値の高いスイートコーンを目指します。

今年度は、RKB「発掘ゼミ!!」で取り上げられ、7月24日に放送されました。

木室研究室が プログラミング実験の授業を行いました。



2021年12月26日、古賀市立図書館と福岡工業大学が主催する「冬休み小学生プログラミング教室」が、リーバスプラザこが交流館で開催されました。

プログラミング教室では、本学情報システム工学科の木室教授が講師となり、古賀市の小学生1年生から6年生までの23名が、車型ロボットとドローンのプログラミングロボット教材でプログラミングの基礎を学びました。同研究室に所属する大学生8名も、サポートとして参加しました。プログラミング教室では、初めに1人1台配布

された車型ロボットを使い、基本的な操作やプログラム方法を学んだ後、参加者それぞれが自由にプログラムして動かしていました。試行錯誤しながら自分のイメージした通りにプログラムできるようになった後、10人程度のグループを作り、全員が同じプログラムを入力して同じ動きをさせる「ロボットダンス」を実施。横一列に並んで一斉に実行させ、同じ動きをした時には会場から拍手が沸き起こりました。

次にドローンロボットを使った学習を実施。まずはコントローラーによる手動操作でドローンの

動きを確認、操作の難しさを体験しました。その後、車型同様、コントローラーに設置されたテンキーのボタン入力によるプログラミングを行い、縦、横、高さの3次元で動作するドローンのプログラミングを実践。操作方法は車型とほとんど同じなため、スムーズにプログラムしている姿が伺えました。最後は、全員でドローンダンスに挑戦。参加者は「もっとプログラミングができるようになります。」(1年生)、「プログラミングのことが良くわかり、楽しく学ぶことができました。」(4年生)と話していました。

システムマネジメント学科3年生18名が 企業の課題解決について成果発表を行いました。



2022年1月26日、情報工学部システムマネジメント学科のPBLに取り組む3年生18名が、古賀市の課題解決プロジェクト成果報告会を開催しました。

情報工学部システムマネジメント学科では本学と包括的連携協定を締結している古賀市をフィールドに2017年度から課題解決型学習(PBL:Project Based Learning)に取り組んでおり、今年で5年目となります。

例年は前期授業で小中学生対象の社会科イベント「工場見学・体験教室」の企画・運営、後期授業で企業や工場の抱える課題解決に取り組んでいましたが、本年度は昨年に続きコロナの影響で工場見学は中止となったため、前期から課題解決に取り組んできました。

成果報告会には、PBLにご協力頂いた株式会社ナダヨシ、株式会社如水庵、株式会社ピエトロ、古賀市役所から9名の方に参加いただき

ました。発表を聞いた企業の担当者からは、「今回はお菓子の箱詰めについて分析や最適作業工程の映像マニュアル作成を行っていただいたが、実際には2時間の長い工程がある。今後はそれをすべて映像マニュアル化していきたい為、引き続きよろしく願いたい。」とのコメントがありました。

シスマネPBLでは、次年度も新3年生に引継いで取り組みを続けていきます。

ラグビー部53名が 新宮海岸で清掃を行いました。



福岡工業大学の強化クラブであるラグビー部は、九州学生リーグに所属している1965年に創部された伝統のあるチームで、今まで支えていただいている地域への感謝の気持ちから、積極的に地域のボランティア活動に参加しています。

2021年12月11日(土)、ラグビー部53名は、本学の寮が所在するなど深く関わる地域である新宮町の新宮海岸で清掃活動を実施しました。今回の活動は、ラグビー部から新宮町環境

課に何か地域貢献活動でお役に立てることが無いか問い合わせたことで実現しました。

この日は筑前新宮に白砂青松を取り戻す会・町議会議員・町職員99名による新宮海岸の楯の松原保全活動も開催されており、開会式に福工大ラグビー部も参加。

ラグビー部は宮浦監督指導の下、この時期漂着物も多くゴミが多い海岸を清掃し、回収しても次々に出てくるごみに驚きながら2時間の清掃

活動に汗を流しました。

活動を終えて、宮浦監督は「コロナウイルス感染症拡大の影響で、この2年間は「新宮町クリーン作戦」など新宮海岸の大規模な清掃が行われておらず、海岸はゴミで汚れていました。今後、定期的に清掃を行っていかねばならないと痛感しました。」と話しました。

新宮町で小学生対象のサマーキャンプの 運営ボランティアに学生3名が参加しました。



新宮町では、毎年小学生の夏休み期間に海水浴やキャンプファイヤーといった野外での体験活動「サマーキャンプ」を実施しています。本活動は、子どもたちに不足している自然体験や野外活動を通じて、自然の中で活動することにより、集団生活や遊びを学ぶことを目的としています。

今年度は本活動の運営補助ボランティアとして3名の学生が参加しました。

本活動には2019年から継続して活動している本学の男子2名が見守りに加えて、広報・参加者の保護者へ様子をお届けすることを目的に、Facebookへ投稿用の記事作成と写真撮影を行いました。



ダム周辺の管理運営改善策を提案



本学が自律的に考え、行動し、社会で活躍することのできる人材、実践型人材を育成するために推進している課題解決型学習（PBL：Project based learning）として、包括的連携協定を締結している篠栗町の抱えている課題に、「フィールドワーク」科目を履修する社会環境学科3年生35名の学生が活動しました。

篠栗町の抱えている課題は、篠栗町が管理している、公園や道路、河川を有する鳴淵ダム周辺の施設整備や草刈りなどの管理費用が大きいこと、2か所ある公園の利用者数に大きく偏りがあること、夏場において河川を有する公園に車

での来場者が多く、渋滞等で周辺の住民に迷惑がかかっていること、公園で火器の使用や宿泊、ゴルフの練習など禁止された行為をする人がいることなどです。

2021年4月27日、学生35名は科目の指導教員である田中准教授、渡邊准教授、陳助教の3名と共にクワイエット篠栗を訪れ、鳴淵ダム周辺を所管する都市整備課の職員の方から課題の説明を受け、その後実際に鳴淵ダムへ移動し、自分たちの目で周辺の公園や河川を視察しました。

その後、学生たちは5人程度のチームに分かれ、他自治体の先進事例の調査やアンケートを

実施し、自分たちの考えた解決策を考えました。そして、最終的に10月4日に発表会を行いました。発表会には、篠栗町三浦町長をはじめ、都市整備課の職員2名と篠栗町観光協会の井上副会長に参加いただき、4月から課題解決に取り組んできた3年生35名から構成される8チームがそれぞれ考えてきた解決策をプレゼン。広大な敷地面積を有するなるふち平公園にキャンプ場やアスレチックを設置し利用料で収益を得る策や、ダムのライトアップを行い新たな観光名所として集客や篠栗町の知名度アップを図る策などが提案されました。

教養力育成科目「地域創生入門」で 篠栗町長へプレゼンテーション



自治体では、全国的に地域活性化やまちづくり、地域再生をキーワードにして、地域を取り巻く主体（住民、自治体、大学、企業）により、地域の課題に対応した取り組みが行われています。教養力育成科目の「地域創生入門」（教養力育成センター 檜崎教授）では、全国的な地域の傾向を理解するとともに、大学を取り巻く近隣地域の現状と課題に着目し、グループワーク形式による議論を通じて、問題発見・問題解決策を考

察し、具体的な企画提案能力を修得することを目的としています。その「地域創生入門」で、2022年1月20日（木）5限に、本学と連携協定を結んでいる篠栗町の介護予防をテーマに、受講者33名が6チームに分かれて、それぞれがまとめた提案を発表しました。

当初は篠栗町の町長他数名が来学予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、急遽、篠栗町と大学をオンラインでつないでの

発表会となり、篠栗町からは、三浦町長ほか3名、「さざぐり元気もん活動」事務局リーダーの和田さんらが出席しました。学生からは、町内でのイベント開催やエコバッグの配布、企業連携をすすめる、スマホ教室をするなどの介護予防に関する提案がなされました。最後に三浦町長から、各チームの提案内容に感想が述べられ、「大変楽しく聞いて勉強になり、学生ボランティアなどは導入したい」等の感想が述べられました。

島原市の防災訓練に 「防災Go!®」体験ブースを出展



に関する意見を頂くことができました。

11月7日朝8時半、震度6強の地震が発生した想定で訓練が開始され、住民17人に自宅から指定避難所まで避難する間にアプリを体験してもらいました。また島原市立第三小学校では、避難してきた住民に対して災害発生時の大事な行動説明や本学のOBでもある古川市長の講話などが行われたのち、「防災Go!®体験ブース」を出展し、約50人の訓練参加者に防災Go!®を体験してもらいました。

2日間にわたる島原市での取り組みを終えた学生は、「住民の方の体験がスムーズに進むよう、常に周りに目を配り、少しでも不安そうな方を見つけたらなるべく早く声を掛ける事を心がけた。」「(防災Go!®を)防災避難訓練や小中高の社会の授業のフィールドワークで活用してもらいたいと思いました。」と話していました。

本取り組みは後日、NHKのローカルニュース、テレビ長崎、島原新聞、西日本新聞で紹介されました。

本学と島原市は、2021年11月7日に行われた島原市防災避難訓練の中で訓練に参加した住民に、本学が企業と共同開発した防災アプリ「防災Go!®」を体験しながら避難経路のリスクを確認してもらう取り組みを行いました。

「防災Go!®」は、福岡工業大学と㈱CTIランドプランニングが共同開発したスマホ向けアプリで、地域の防災情報と位置情報を組み合わせ、実際にその危険箇所や避難所などに立ち寄るとその場所にまつわるクイズが出てくるという防災アプリです。平常時にゲーム感覚で利用してもらい、防災に関するクイズを解きながら身近

な災害リスクや避難経路などについて関心を持ってもらうことを目的として開発されました。

11月6日、訓練開催地区の住民の大人13人、子ども6人の計19人を対象に、アプリの使い方説明会を開催。アプリの開発を行った社会環境学科の森山教授と上杉准教授、CTIランドプランニング3名の他、両研究室に所属する学生7名が運営として参加しました。アプリの紹介や操作方法を説明後、住民は学生と一緒に市内の危険がひそむ場所や避難所をめぐり災害リスクに関するクイズに挑戦。終了後はアプリを体験した住民にアンケートを行い、有用な改善点

学生がGISを活用し、 博多湾の情報プラットフォームを構築



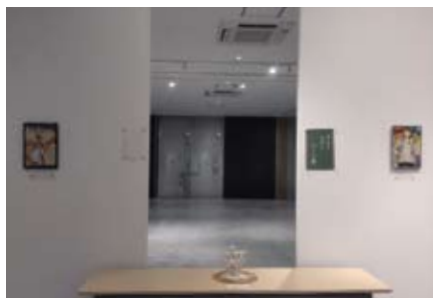
による博多湾の魚類調査などの発表があり、本学からも4名の学生が「GISを活用したアマモ場調査とイベント告知用プラットフォームの紹介」と題し上杉研究室が開発した情報共有アプリの説明を実施。アプリは、博多湾NEXT会議の各会員がそれぞれの取り組みをアプリ地図上に投稿し、情報共有やイベント告知として活用するなど、博多湾の情報プラットフォームを目的に開発されました。発表を終えた学生たちは、「発表は環境保全の第一線で活躍している方々の前でとても緊張したが、今後皆様に私たちが作ったアプリを活用してもらえると嬉しい。」と話していました。博多湾NEXT会議で、プラットフォームアプリを活用し情報共有をタイムリーに行うことで、今後さらに博多湾の環境保全が活発化することに期待が寄せられます。

市民、市民団体、漁業関係者、企業、教育、行政など多様な主体が連携・共働し、環境・経済・社会の統合的向上に取組みながら、豊かな博多湾の環境を未来の世代に引き継いでいくことを目的に組織された「博多湾NEXT会議」。

2021年11月末日現在、団体会員48団体、個人会員24名により組織されているこの会議には、福岡工業大学社会環境学部も団体会員と

して参画しています。2021年12月1日に各会員の取組みや成果を報告し合う情報交換会が、本会議の事務局である福岡市港湾空港局の会議室にて開催されました。18団体から29人が参加したこの会に、本学からは社会環境学科上杉准教授と上杉ゼミに所属する3年生の学生4名が参加しました。活動報告では、博多湾における「アマモ」の移植方法や育成状況、環境DNA

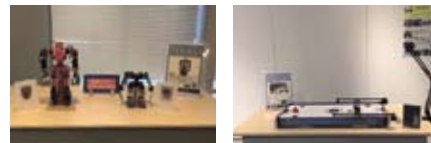
東区芸術文化祭への参加



福岡市の主催で2021年10月1日(金)~12月31日(金)の期間、千早駅前のなみきスクエアにて東区芸術文化祭が開催されました。これは区民が心豊かに生き生きと暮らせるまちづくりへ向け、多くの区民が気軽に芸術文化に触れ楽しむことができ、質の高い芸術文化に触れる機会を提供することを目的として2021年度に始まった取り組みです。

音楽や舞踊など様々なジャンルの催しや展示が行われていますが、この中の美術ジャンルの

展示において、本学からモノづくりセンタープロジェクトとモダンアート部が参加しました。制作したロボット、手作りアクセサリ、エアホッケー、アート作品、イラスト等を展示し、多くの区民の方に鑑賞頂きました。



大学生が「警察の交通事故統計」学ぶ



福岡工業大学システムマネジメント学科では、大学1年生を対象に統計学の基礎を学修する「確率統計I」を必修科目としています。2021年11月16日(火)、実社会の中で統計学がどのように利用され問題解決に役立っているかについて学んでもらうことを目的に、福岡県警察本部交通企画課課長補佐の妹尾警部をお招きし、「警察の交通事故統計」と題し特別講義を行っていただきました。

本取り組みは、2017年から今回で4回目。参加した67名の学生に向けて、今年も実際に起きた交通事故をテーマに分析手法や分析事例を紹介いただきました。

妹尾警部の講義では分析手法として、発生した交通事故を地図上に分布し、さらにその他の関連情報も併せて表示することで多角的な分析が可能となるGIS分析や、情報の掘り下げやトレンドを把握するため、事故データの項目を自由に組み合わせることで一歩踏み込んだ分析が可能

になる多次元分析の説明がありました。分析事例の紹介では、本学が位置する和白地区の交通事故の分析と、それを軽減するために実際に信号機を設置した事例など、学生にとって身近な事例でとてもイメージしやすい内容を説明いただきました。また、交通事故の対象を大学生に絞り、どのような状況で事故が発生しているかのデータとともに、事故を起こさない為のアドバイスをいただきました。

質疑応答では、今回紹介いただいたデータの抽出や分析にはどのくらい時間がかかるのかという学生の問いに、1つのグラフを示し、データ抽出・グラフ作成に合わせて15分程度との回答があり、想定していたより短い時間であることに質問した学生は驚いた様子でした。

講義の最後に妹尾警部から学生へ、「統計学ができる人は実社会で重宝されることが多い。統計学をしっかり勉強し、社会に出て問題解決に役立ててほしい。」と熱いメッセージが届けられました。

福工大生と福岡県警の連携による交通事故抑止活動



2021年12月22日の夕刻、交通事故に関する課題解決に取り組んでいる本学の学生2名が、福岡県警察の警察官と協力し、死亡事故抑止のため乱横断者の取り締まりや、歩行者への反射板配布活動を実施しました。これは「年末の交通安全県民運動」の一環として行われました。

乱横断とは、横断歩道以外を渡ったり、横断歩道でも信号を無視して渡ったりすることで、福岡県では乱横断による死亡事故が増加傾向にあり、喫緊の課題となっています。活動を行った場所は、JR福工大前駅周辺から和白交差点に抜ける県道で、特に和白病院前付近では朝の通勤通学時間帯や夕方の帰宅時間帯で乱横断が多く見られる場所です。

活動に参加したシステムマネジメント学科の藤岡教授と学生2人は、福岡県警察東警察署交通第一課の警察官3名と福岡県警察本部交通

部交通企画課の警察官3名とともに、乱横断をする人がいないか巡視したり、高齢者を中心に声をかけたり、夜間に車から見やすくなる反射板の効果の説明と持っているバッグへの取り付けを行ったりしました。1時間の活動で、乱横断者1名への注意説明と、約100人の歩行者への反射板配布を行いました。

活動に参加した学生は、「多くの方に呼びかけを行うことができ、さらに警察の方に交通事故に関するお話を直接伺えたので大変良い経験になりました。」と話していました。

今後も本学は、福岡県警察と協力し、交通事故抑止に向けた活動を続けていきます。



福岡都市圏の大学生が協働で 商店街活性化にチャレンジ



福岡都市圏の14大学、福岡市、産業界による連携「福岡未来創造プラットフォーム」では、地域貢献活動を通じた学生交流を目的とした学生ネットワーク構築事業に取り組んでいます。2019年のスタート以来、商店街活性化をテーマに大橋商店連合と香椎商工連盟の若手リーダーの方々と力を合わせて実施しています。2021年度は8大学50名の学生が応募し、SNSを使った情報発信とオンラインイベントの企画運営を行いました。学生達は、Instagram、YouTube、独自企画の3チームに分かれて活動を行いました。全体では月1回のミーティングとごはん会をオンラインで実施し、情報共有を行いました。

Instagramチームでは、商店街のお店紹介投稿の他プレイリスト企画も行いました。YouTubeチームでは、福岡未来創造プラットフォームの活動紹介動画や商店街のお店紹介ショート動画を公開しました。独自企画チームで

は、商店街の恋愛マスターさんにオンラインで恋愛相談する「商店街de恋バナ♡」企画と、香椎自然食品センターの黒板を使ってお店のPRを行いました。さらに、独自企画チーム主催によるオンライン反省会も実施するなど、学生主体の様々な活動が展開されました。

活動を通して、学生同士が交流でき、商店街に貢献できたと思います。また、コロナ禍が大学生活に影を落とす中、大学の垣根を越えた貴重な経験となりました。

Instagram



YouTube



リーダーを引き受けた近藤さんのコメント



myfitで学生交流プロジェクトの募集を見つけて応募しました。コロナの影響でなかなか思うようにはいきませんでした。他大学の学生と力を合わせて活動することができました。特に、YouTubeチームの商店街テイクアウト商品1万円分食べつくし企画の撮影で初めて顔を合わせた時のことは忘れられません。この経験を大学での学びや将来に活かしていきたいです。
知能機械工学科1年 近藤亮佑

「福岡学」開講



福岡都市圏14大学、福岡市、産業界による産学官連携「福岡未来創造プラットフォーム」では、2021年9月のオープンガイダンスを皮切りに10月から12月にかけて5回、共同教育プログラム「福岡学」を開講しました。この講義は、創造性と多様性に溢れた福岡の魅力を紹介し、福岡のまちづくりについて考える特別講義で、樋井川や天神での現地学習を交えて、他大学の学生と一緒に福岡について学べる貴重な機会となりました。

「文理不問!エンジニアに興味のある 学生のための基礎講座」を開講



福岡都市圏14大学、福岡市、産業界による産学官連携「福岡未来創造プラットフォーム」では、大学の垣根を越え、福岡の未来を創る学生を育てる特別教育プログラムを実施しています。その一環として、2021年11月から12月にかけての4回、対面又はオンラインで、エンジニアという仕事や働き方に関する講座を実施しました。

地元企業からMicrosoftのインフルエンサーまで分野、経歴、年齢、性別の異なる多彩な講師からエンジニアのキャリアについて学ぶことができる講座でした。

「SDGsを学ぶ」を開講



2021年11月27日(土)、29日(月)、30日(火)いずれも9:00-18:00、本学も加盟している福岡未来創造プラットフォームでは、共同開講科目「SDGsを学ぶ」を実施いたしました。世界が抱える様々な問題を2030年までに解決するために作られたSDGs(持続可能な開発目標)ですが、「ネットやテレビで目にしたことはあるけど、実はよくわからない…」という人も多いのではないのでしょうか。この講義ではカードゲーム、レゴによるワークなどで、SDGsについて学び、現地学習を通じ、他者と連携しながら持続可能な社会づくりに向けて行動を起こすことを目指しての開講となりました。本学からは藤井教授が講義を行いました。

香椎駅にてキャンペーン実施



2021年10月15日(金)18時30分からJR香椎駅において「性犯罪防止キャンペーン」が行われ、本学学生3名が参加しました。

これは福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学の東部地域大学連携「女子学生のための防犯推進協議会」のイベントとして、福岡東警察署の指導の下、九州産業大学2名、福岡女子大学3名の学生と共に性犯罪防止の啓発グッズの配布などを行ったものです。

福岡県では夏から秋にかけて10代から20代の女性を中心とした性犯罪被害が多発しており、同年代である女子学生が駅を利用する女性を中心にグッズの配布、声掛けを行うことにより、一層の防犯意識の高揚を図る目的で実施されました。

参加学生たちはお揃いのジャンパーを着用し、ぎこちない感じでグッズを受け取ってもらえない場面も多い様子でしたが、だんだんと慣れ、「防犯ブザーなども入っています。」などと声を掛けて、用意されていた啓発グッズ200セットをおよそ30分程度で配布し終わりました。

東部地域大学連携と福岡東警察署では、女子学生の皆さんが性犯罪の危険性を認識して『自分の身は自分で守る』という意識を広めていくために、協議会の活動を引き続きサポートしていきます。

認知症に関する講座を受講



2021年10月16日(土)福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学の東部地域大学連携「福岡市東区認知症に優しいまちづくり事業」の一環として認知症に関する講座が行われました。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるものです。高齢化社会となった現代では、家庭や社会の中で高齢者の方と関わる場面も多くありますが、福岡市では認知症の人の意思を尊重し、できる限り住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりをすすめています。

そこで認知症を正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守る「認知症サポーター養成講座」(東区地域保健福祉課)と、認知症の人との

コミュニケーションに有効なケア技法を学ぶ「ユマニチュード講座」(保健福祉局 認知症支援課)が、東区ライフサポートワーカーの吉住氏、中村氏により開催されました。本学からは学生7名と職員7名が参加しました。

講座では、受講者がペアになって会話をするワークを行ったり、実際に認知症の介護を続けている家族が技法を学んで変化していくビデオを視聴したりしました。参加者は様々な気づきを得、最後に講座を終えた記念にいただいた元気がでるオレンジ色のマスクを付け、記念写真を撮り終了しました。

認知症声掛け訓練へ参加



東部地域大学と東区認知症に優しいまちづくり事業との連携で、2021年12月4日(土)に認知症声掛け訓練が本学で開催されました。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるものです。福岡市では認知症の人の意思を尊重し、できるだけ住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりをすすめています。その一環として認知症サポーター養成講座を得て、実際に困っている認知症の方に声をかける練習を行うというものでした。本学からは、学生3名それ以外7名の参加で、その他、福岡市の方、スタッフや地域の方、学生さんなど100人近くの参加者がいました。

まず、今までのおさらいをして4、5人の班に分かれて外に出て、班ごとに認知症の役の方に声

をかけました。なかなか、思うような返答が得られない状況で戸惑いながらも、順番に声をかけていきました。その後どのように声をかけたら良いのか認知症役の方にお話をさせていただきました。

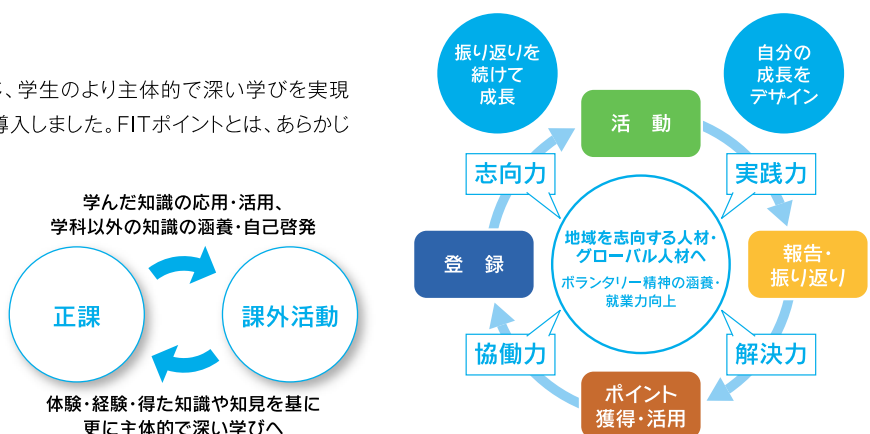
最後に学生さんの代表、地域の代表、ライフサポートワーカーの方が登壇して、感想などを話しました。実際にどのように声をかけたらよいのが難しかったが、本日の経験を今後の生活に役立てたい等の感想を述べられました。

FITポイント
社会貢献
・
自己啓発

FITポイント制度で地域貢献・社会貢献・自己啓発など課外活動に取り組む学生を支援します。

FITポイント制度とは？

福岡工業大学では授業以外の活動を通じ、学生のより主体的で深い学びを実現するため、「FITポイント制度」を2019年より導入しました。FITポイントとは、あらかじめ大学が指定する課外活動に取り組んだ学生が学習ポートフォリオ(FIT-AIM)で振り返りを行うと、①活動内容 ②移動距離 ③期待される成果などを勘案したポイントを獲得できる本学独自の学修支援制度です。このFITポイント制度を通じて学生の皆さんが主体的に活動に参加し、記録し、振り返ることによって自分の成長を確かめ次の成長につなげることを目的としています。



2021年度 活動一覧

4月	<ul style="list-style-type: none"> ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」播種(1回目) ●篠栗町「鳴淵ダム周辺の管理運営改善」社会環境学科学生が取組開始・現地視察 ●古賀市「シスマネPBLプロジェクト」開始 ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」定植(1回目) ●古賀市「学童保育所補助指導員」事業開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●古賀市「連携協議会」 ●古賀市「古賀駅西口再生プロジェクト」ホーホウ木藤氏講演 ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」大橋、香椎の商店街の活性化を目的に8大学の学生が交流開始
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●古賀市「シスマネPBLプロジェクト」実行委員会開催 ●福岡市「学生サポーター」活動開始 ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」播種・定植(2回目) ●新宮町「放課後学習支援員(新宮中学校)」活動開始 ●東部地域大学連携「第1回東部地域大学連携学生懇話会、女子学生のための防犯推進協議会」 ●福岡市「オンライン防災訓練1回目」
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●新宮町「連携協議会」 ●新宮町「寺子屋見守り事業」事業開始 ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」収穫(1回目) ●福岡市「デジタル人材育成プログラム」開始 ●篠栗町「鳴淵ダム周辺の管理運営改善」中間発表 ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」香椎街歩き・動画講習会開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●新宮町「サマーキャンプ」 ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」収穫1(2回目) ●福岡市「オンライン防災訓練2回目」 ●篠栗町「鳴淵ダムドローン練習会1回目」開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●篠栗町「課題解決型・インターンシップ」(8月~9月) ●新宮町「課題解決型・インターンシップ」(8月~9月) ●古賀市「課題解決型・インターンシップ」(8月~9月) ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」収穫2(2回目) ●古賀市「学生が高齢者にメッセージカード」贈呈 ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」大橋YouTube撮影・共同教育プログラム「福岡学」オープンガイダンス開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●篠栗町「鳴淵ダム周辺の管理運営改善」社会環境学科大学生がプレゼンテーション ●篠栗町「鳴淵ダムドローン練習会2回目」開催 ●福岡市「東部芸術文化祭」にモノづくりセンターのプロジェクトチームが'出展 ●東部地域大学連携「香椎駅にて性犯罪防止キャンペーン」 ●東部地域大学連携「認知症に関する講座」開催 ●福岡未来創造プラットフォーム 共同開講プログラム「福岡学」開講 ●福岡市「第1回アントレプレナーシップ講演会」 ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」香椎YouTube撮影・心理学動画講座
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●島原市「防災訓練で本学開発防災GO![®]を活用」 ●福岡市「東区芸術文化祭」にモダンアート部出展 ●福岡未来創造プラットフォーム 共同開講プログラム「エンジニア基礎講座」開講 ●福岡県警察「確率統計1」の特別授業開催 ●福岡未来創造プラットフォーム 共同開講プログラム「SDGsを学ぶ」開講 ●東部地域大学連携「第2回東部地域大学連携学生懇話会、女子学生のための防犯推進協議会」
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」大橋街歩き ●福岡市「博多湾NEXT会議」での活動報告 ●福岡市「第2回アントレプレナーシップ講演会」 ●福岡市「臨時避難所」に関する連携協定締結 ●東部地域大学連携「認知症に関する講座声掛け訓練」開催 ●和白5校区「第121回キャンパスサミット」開催 ●古賀市「プログラミング授業」 ●新宮町「ラグビー部による新宮町海岸清掃」 ●福岡未来創造プラットフォーム「学生交流プロジェクト」商店街de恋バナ、イベント開催 ●福岡県警察「シスマネPBL交通安全イベント」嘉麻市・福岡市
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●篠栗町「地域創生入門」町長、福祉課へのプレゼンテーション ●古賀市「シスマネPBLプロジェクト成果報告会」 ●福岡県警察「シスマネPBL・プロジェクト成果報告会」・野球部「シスマネPBL・プロジェクト成果報告会」 ●古賀市「スイートコーンプラズマ照射種子の生育実証実験」成果報告会 ●新宮町「連携協議会」 ●東部地域大学連携「第1回東部地域大学連携推進委員会」
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●新宮町「シスマネPBL新宮町プロジェクトICT体験授業」実施 ●福岡市「第3回アントレプレナーシップ講演会」
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●東部地域大学連携「第3回東部地域大学連携学生懇話会、女子学生のための防犯推進協議会」 ●福岡未来創造プラットフォーム「ビジネス体験プログラム」「学生交流プロジェクト」商店街掲示黒板描き・YouTubeライブ配信 ●東部地域大学連携「第2回東部地域大学連携推進委員会」「学長懇話会」 ●古賀市「連携協議会」